

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	25	認知症高齢者対策の推進					
章	1	健康でおもいやりのあるまち					
大項目	03	社会福祉を支える新しいしくみづくり					
施策	01	福祉と保健・医療サービスなどの総合的展開					
事業内容							
目的	認知症高齢者を早期に発見し、認知症の予防及び介護者等の負担を軽減します。						
対象・手段	認知症または物忘れの心配がある方及びその介護者に対して、物忘れ相談など各種保健予防に関する事業を実施します。 また、60歳以上の認知症徘徊高齢者を在宅介護している方に、位置情報探索機の申込金及び探索システム利用料の助成を行います。						
成果(事業が意図する成果)							
認知症を早期に発見し、原因疾患で治療可能なものについて早期に治療を行うことにより、認知症の進行を最小限に抑えます。 また、徘徊高齢者や要介護者を支援することにより、家族等の介護者の負担を軽減します。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
早期に発見された人の割合	物忘れ相談の中で認知症と診断された者の数 / 来所数	(平成19年度) 年度に (発見数の増加) の水準達成					
相談の結果、生活の質(QOL)が改善されたと思った人の割合	認知症専門相談に来所した家族で改善されたと思った人 / 来所数	(平成19年度) 年度に (70%) の水準達成					
高齢者探索サービス利用率	介護保険認定調査で、「在宅で徘徊がある」推定される方を母数とした、認知症徘徊高齢者探索サービスを利用している方の割合	(平成19年度) 年度に (20%) の水準達成					
成果の達成状況							
	単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備考	
事業成果指標	目標値1	%	0.00	0.00	0.00	0.00	指標1の実績 19年度: 27/71
	実績1	%	41.67	39.13	43.28	38.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	指標2の実績 19年度: 25/28
	目標値2	%	70.00	70.00	70.00	70.00	
	実績2	%	80.00	75.00	75.90	89.30	
	= /	%	114.29	107.14	108.43	127.57	
	目標値3	%	20.00	20.00	20.00	20.00	
	実績3	%	16.29	13.15	15.50	22.10	
	= /	%	81.45	65.75	77.50	110.50	
事業の実施内容							
平成18年度	講演会: 3回(参加者157人)、 支援者向け講演会: 1回(参加者36人)、 リーフレット等作成配布 認知症専門相談: 所内相談12回(延21人) 訪問相談9回(延11人) 物忘れ相談: 16回(延67人) 認知症高齢者訪問指導: 延341人 面接・電話等相談: 延733人 関係機関連絡: 1347件 探索サービス利用者数 31人 探索依頼回数 423回						
平成19年度	講演会: 3回(参加者126人)、 支援者向け講演会: 1回(参加者60人)、 リーフレット等作成配布 認知症専門相談: 所内相談12回(延22人) 訪問相談(延7人) 物忘れ相談: 16回(延71人) 認知症高齢者訪問指導: 延257人 面接・電話等相談: 延 関係機関連絡 探索サービス利用者数 36人 探索依頼回数 1,174回						

部名称		福祉部		課名称		高齢者サービス課	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	1,450	1,665	1,705	2,495	
	人件費	千円	3,752	3,752	3,726	3,717	
	事務費	千円	66	221	35	10	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	5,268	5,638	5,466	6,222	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	5,268	5,638	5,466	6,222	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	4,620	4,872	5,466	6,222	平成18年度より、高齢者探索サービスの補助金が対象外となりました。
	特定財源		648	766	0	0	
	一般財源投入率 /	%	87.70	86.41	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.45	0.45	0.45	0.45	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>認知症の早期発見のための普及・啓発活動、物忘れ相談をより充実させることや、かかりつけ医等での早期発見方法、早期段階の認知症の進行抑制対策を進めていくことが重要です。また、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようにするためのしくみづくりが必要です。</p>							
評価基準に基づく評価と理由	達成度	2	相談や専門医による認知症の方への接し方などの講演会を実施し、普及啓発に取り組み早期発見の割合が増加しています。探索システムは目標値に達しました。				
	実施の成果	2	講演会・物忘れ相談・認知症専門相談・訪問指導の各々の効果はありますが、区民全体への対策としては、まだ十分ではありません。探索システムは、24時間体制により、介護者への身体的・精神的・経済的な負担を軽減しています。				
	効率性	2	相談事業は、関係部課・関係機関と連携して、効率的に実施しています。探索システムは、24時間体制での位置情報提供および保護が可能な点で効率的です。				
	行政の関与	3	予防・早期発見等認知症高齢者対策に、区が総合的に取り組むことは必要です。探索システムは、認知症高齢者に対する支援の一環として、区がサービスを提供する必要があります。				
	妥当性	2	相談により認知症を早期に発見し早期に対応することは、進行防止等に有効です。探索システムは、介護者への身体的・精神的・経済的な負担を軽減していることから、目標や指標は妥当です。				
	施策寄与度	2	専門医による相談をはじめとした様々な取り組みは、施策目的である認知症の早期発見や介護者の負担を軽減することに寄与しています。				
総合評価	<p>19年度の評価をBとした理由は、講演会の回数を増やし、支援者向け講演会の実施など、広く普及啓発に努めたことにより、認知症の早期発見につながったことによります。また、過去3年間の評価も、着実な事業展開が図られていることからBです。今後も関係部署が連携して事業を実施することにより内容の充実を図っていきます。</p> <p>また、認知症の予防及び早期発見のための更なる普及・啓発を推進します。支援者やかかりつけ医等と連携して、きめ細かな対応を実践すると共に、保健センターや地域包括支援センターとの連携強化により本人及び家族への支援対策を進めていくことが重要です。</p>						B
							過年度評価
改革方針							18年度 B 17年度 B 16年度 B 15年度
	<p>各種講演会や認知症専門相談等の事業については、認知症の普及啓発、早期発見・早期対応及び本人や家庭支援事業の一環として、経常事業「精神保健相談」において引き続き実施していきます。</p> <p>また、高齢者探索システムについては、認知症高齢者に対する支援事業の一環として、経常事業「徘徊高齢者探索サービス」として引き続き実施していきます。なお、認知症になっても住みなれた地域で安心して暮らし続けられるようにするため、第一次実行計画「30 認知症高齢者を地域で支えるしくみづくり」に引き継いで取り組んでいきます。</p>						4
						方向性	
						拡大	